

読むこと部会 平成30年度の研究の方向

読むこと部会部長：東長良中学校 小宅 陽久

1. はじめに（全国大会の成果と課題）

平成29年度、岐阜県で開催された第46回全日本中学校国語教育研究協議会 岐阜大会では「読むこと」の学習において、これまでの岐阜県の研究実践の取り組みの集大成の姿を示すことができた。次に示すのは「読むことⅠ（説明的文章）部会」「読むことⅡ（文学的文章）部会」における振り返りである。

【読むことⅠ（説明的文章）部会】

本実践は確かな読みを自分の考えの形成に結ぶ学習であった。確かな読みがあってこそ主体的、意欲的な学びが生まれる。単位時間の学習が単元の終末につながっていて、生徒は言語活動を常に意識しながら学習を進めていた。全体交流での教師の投げかけや生徒同士のやりとりの中で疑問を解決しながら課題に向かっていった姿はまさに主体的な学びであった。自分の考えをつくる場面では、筆者の文章の良し悪しに執着しないようにすること、教材文に立ち戻り根拠とすることに配慮しながら、具体的な場面で考えていくことを意識したい。それが、学習指導要領にある「知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」である。言語活動に決まりはなく、生徒の実態を的確に把握して適切な言語活動を設定し実践を積み重ねていくことが大切である。全国学力・学習状況調査において「考えの形成」に関する問題は、全国平均を上回っている。これは、岐阜県で「考えの形成」を大切にされた実践をしてきた成果である。

【読むことⅡ（文学的文章）部会】

今回の実践の成果は三つある。一つ目は、指導事項の重点化が図られている点である。本実践では付けたい力を3年「読むこと」の「エ 自分の考えの形成に関する事項」に設定し、「故郷」という読み応えのある教材の解釈にとどまらず、考えの形成に至るようにしている。1学期の「握手」の学習では「イ 文章の解釈」に重点を置くなど、学習の系統性を大切にされた実践であった。二つ目は、自分の考えの形成を重視した指導が行われた点である。新学習指導要領においても「自分の考えの形成」が重点としておかれている。今後の10年を見据えた上で挑戦された実践になったことは大変意義深い。三つ目は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が図られた点である。単元導入時に単元を通して追究するテーマを自分で考えたため何を読み取っていけばよいか明確になり、主体的に課題解決に向かう姿が生まれた。また、終末に「どのように自分の考えが広がり、深まったか」を実感する場があることで、自分の学びの深まりを実感することが意識されていた。単位時間の中だけではなく、単元というまとまりの中で授業改善が図られていた。課題としては、生徒がさらに生きて働く言語活動を実感できる場を設定したいということである。「故郷」という教材の力を生徒と共に解釈し、生徒自身が今おかれている状況の中でどのように生きえ行くかを考えさせていきたい。

両部会ともに「自分の考えの形成」を重点とした実践が評価され、岐阜県において今後さらにそのような実践を大切にしていこうという方向を確認することができる。この全国大会の実践を土台として

「自分の考えの形成」の実践を県下で実施して行く必要があると考えている。

2. 主題設定の理由

上記の平成29年度（全国大会）の成果と課題を踏まえ、次の3点から読むこと部会の研究主題を設定していきたい。

(1) 今日の課題について

PISA2012（平成24年実施）においては、読解力の平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっているなどの成果が見られたが、PISA2015（平成27年実施）においては、読解力について、国際的には引き続き平均得点が高い上位グループに位置しているものの、前回調査と比較して平均得点が有意に低下していると分析がなされている。情報化の進展に伴い、特に子供にとって言葉を取り巻く環境が変化する中で、読解力に関して改善すべき課題が明らかとなったものと考えられる。読むこと部会においてはこの結果の推移を踏まえ、指導を改善していきたい。

(2) 岐阜県の生徒の実態（全国学力・学習状況調査より）

平成29年度の全国学力・学習状況調査では、全国的に伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題があることが明らかになっている。また、各学校で言語活動の充実を踏まえた授業改善が図られている一方、依然として教材への依存度が高いとの指摘もあり、更なる授業改善が求められる。

岐阜県においては「国語A、Bともに全国平均生徒率を上回る数値で推移している。この結果は「知識及び技能」の定着や、それを実生活の様々な場面に活用する力が概ね身についていることを示している。しかし全国平均は上回っているが、依然平均点の半分に満たない生徒は一割程度存在する。また、生徒質問紙「国語の勉強は好きだ」の質問に対して「当てはまる」と答えた生徒は27.1%であり、正答率の高さとは反対に、国語の学習に対して満足感や充実感を感じたり、国語の力が付いたと実感したりしている生徒の割合は低いことが明らかになった。

(3) 新学習指導要領で求められている「読むこと」の力について（学習指導要領解説 国語編より）

「C 読むこと」の指導事項は、学習過程に沿って、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」で構成されている。今回の改訂では、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けてある。〔知識及び技能〕の「読書」に関する事項との関連を図り、生徒の日常の読書活動に結び付くようにすることが重要であると述べられている。今年度は、全国大会での成果と課題を踏まえ、「①言語活動を確実に設定すること」、「②「考えの形成、共有」の学習過程を重視した指導計画を作成し、実践すること」の2点に重点を置き実践を積み重ねていきたい。

昨年度までの研究から明らかになっているように「読むこと」の学習は他領域の学習と比べ、内的な活動であるため、力の高まりを自覚することが難しい。そこで、「読むこと」の学習においては、教材の生かし方、単元構想の工夫、言語活動の充実などを図ることで学ぶ目的を明確にすることが必要となる。言語活動、付けたい力を確実に設定した上で学習を展開していきたい。そして、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既存の知識や様々な経

験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしていきたい。このようなことを意識して「読むこと」における指導を行っていくことが文章を読んで主体的に読み深めていく能力を育成することにつながっていくと考えている。

3. 研究主題について

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に「読むこと」の学習に取り組むことができる生徒
- ◎言語活動を通して、習得したことを活用し、読みの深まりを実感できる生徒
- ◎言語活動を通して形成した自分の考えを豊かに表現したり、根拠をもって適切に伝え合ったりすることができる生徒

【平成30年度 読むこと部会 研究主題】

言語活動を通して、主体的・目的的に読み深める能力の育成
～自分の考えを形成する学習過程を重点においた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、単元および単位時間において意図的かつ効果的な言語活動を位置付けたり、付けたい力を明確にしたりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や言語活動のなかで読み取ったことをもとに形成した自分の考えを豊かに表現したり、根拠をもって適切に伝え合ったりする力を育むことができる。

【研究内容】

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きて働く言語能力」の実践の積み上げ
 - ・「明日に生きる言語活動一覧表」及び「明日に生きる言語活動具体化一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料のホームページアップ
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切に教材開発の工夫

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「確かな学力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造

(3) 評価の工夫

- ・単位時間、単元の終末に「確かに読み取れた」「考えが深まった」という実感をもつことができる場の設定

4. 研究計画

時期	会合名等	具体的な内容
1 学期	<input type="checkbox"/> 第 1 回代議員会・研究部総会 <input checked="" type="checkbox"/> 第 1 回「読むこと部会」 5 月 1 5 日 (火) 場所：東部コミュニティーセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 3 0 年度の研究の方向を確認 ・研究実践の見通し，実践発表者の決定
2 学期	<input type="checkbox"/> 明日の授業を考える会	
	<input checked="" type="checkbox"/> 第 2 回「読むこと部会」 8 月上旬 場所：未定	<ul style="list-style-type: none"> ・研究部員の実践交流 ・実践発表者の発表内容，プレゼンを確認する。
	<input type="checkbox"/> 夏季ゼミナール 8 月 2 0 日 (月) 場所：岐阜市教育研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会の実践を共有 ・各部会からの実践発表
	<input checked="" type="checkbox"/> 第 3 回「読むこと部会」 <input checked="" type="checkbox"/> 第 4 回「読むこと部会」 1 2 月下旬 場所：未定	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年間の実践の振り返り ・来年度の方向性の確認
3 学期	<input type="checkbox"/> 第 2 回代議員会・研究協議会 2 月 2 0 日 (水) 場所：岐阜市教育研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会の活動報告 ・来年度に向けての確認